

◆記念トークショー

「トンネル開通による効果と未来」 田中要次氏・田中高山市長・白鳥伊那市長・原木曾町長

■広域ネットワークでつなぐ地域の未来

伊那市の白鳥市長は、令和元年の権兵衛トンネル入口の崩落を紹介。国や県、地元業者の迅速な対応により2カ月で片側通行を実現。通勤や物流、医療面で2つの圏域を支えていることを再認識しました。

高山市の田中市長は、道路網により高山から長野へのアクセスの選択肢が広がり、時間と距離が短縮されたことで観光客誘致、地域経済やインバウンド観光へ期待。二次交通の整備で御嶽周辺の景観も楽しめると、連携した観光資源活用に言及しました。



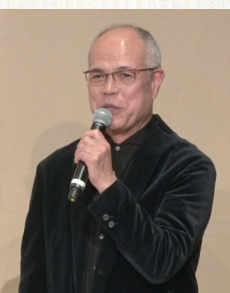
高山市からの観光客誘致について語ったのは、木曾町原町長です。以前の日帰りバス運行では成果が限定的だったと振り返り、今後は広域ネットワークを活用した継続的な観光振興の取り組みを検討したいと話しました。



田中要次さんは原町長の話から、電車やバスを活用した8の字ルートで高山・木曾・伊那地域を巡る企画を提案。地域資源と暮らしのつながりの大切さを改めて感じていると述べました。

■山岳・山林資源とふるさとの景色

明治初期に権兵衛峠を越えて水を引いた歴史的用水を紹介した白鳥市長。山林の手入れが地域の暮らしを支えてきたとし、過疎化による田んぼ維持の課題にも触れました。



田中市長は、観光資源としての山の魅力に着目。海外からの長期滞在客も楽しめる谷や峠のドライブなど、多様なルート整備が観光振興につながると述べました。

また原町長は、地域の森林資源と人材育成の取り組みを強調。県内の学校で林業教育を行い、戦後植林されたカラマツを住宅材や産業資源とする可能性と活用方針を示しました。

田中要次さんは、自然とともに暮らした経験を振り返り、草刈りの大変さ、野生動物との共存、木曾山林高校での思い出を語りました。

■「舞台はR361」妄想映画&ドラマ制作構想

会場では、国道361号を舞台にした妄想映画「361MILES」「ふらり風来坊ひとり旅」の構想で盛り上がりしました。田中要次さんは、江戸時代に峠道開通に尽力した古畑権兵衛が、高遠から高山市へ歩く旅を描くアイデアを披露しました。

白鳥市長は、前出の8の字ルートを生かし、鉄道と徒歩、サイクリングをつなぐ旅番組を発案。井上井月の墓を訪ね、翌日に権兵衛峠を越えて帰った山頭火を、田中さんに演じてほしいと提案。原町長は、東京大学木曾観測所が舞台のドラマの話に触れ、本州唯一の在来馬・木曾馬の登場を希望。また田中市長は、冬の高山市や乗鞍岳・御嶽山を望む絶景をロケ地として推しました。

多彩な視点から、地域の誇りとしての国道361号の魅力を再確認するトークショーとなりました。

◆閉会あいさつ

権兵衛トンネルは木曾にとりましても、伊那にとりましても非常に重要な道です。私ども国道361号整備促進の期成同盟会は「山麓一の麺街道」、あるいは高山・木曾・伊那の3つの文化交流をもっと盛んにしようと「あけぼの文化圏」という呼び方もしています。姥神峠道路が整備されますと、非常に災害に強い、安心・安全な道路になると思っています。国・県・関係者の皆さまのご支援をいただきながら、この道路をしっかりと整備して、培ってきた文化をさらに交流させ、素晴らしい地域に発展させていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。



長野県 木曾郡木曾町長
原 久仁男

権兵衛トンネル 開通20周年記念事業 報告書

令和7年11月24日(月・振)
於：長野県伊那文化会館小ホール



◆開会式

開会あいさつ
開催地代表あいさつ
来賓祝辞

岐阜県 高山市長 田中 明
長野県 伊那市長 白鳥 孝
衆議院議員 後藤 茂之 様
衆議院議員 宮下 一郎 様
長野県議会議員 酒井 茂 様

来賓紹介

休憩

◆基調講演

基調講演1
基調講演2

国土交通省 道路局長 杓掛 敏夫 氏
長野県 建設部長 栗林 一彦 氏

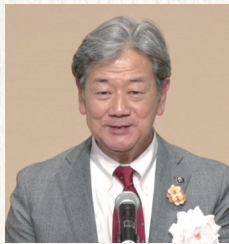
休憩

◆記念トークショー 「トンネル開通による効果と未来」

俳優 田中 要次 氏
岐阜県 高山市長 田中 明
長野県 伊那市長 白鳥 孝
長野県 木曾郡木曾町長 原 久仁男
司会：本間 香葉子
(フリーアナウンサー)

◆閉会あいさつ

長野県 木曾郡木曾町長 原 久仁男



岐阜県 高山市長
田中 明

◆開会あいさつ

今日は、岐阜県高山市から開田高原を経て国道19号を通り、権兵衛トンネルを通過してこちらへ来ました。景色が素晴らしく、道中も快適で、関東へ向かう1つのルートとしての可能性をあらためて実感しました。国道361号は飛騨と信州を結ぶ大変重要な路線であり、これまで多くの改良が進んだことで着実に移動時間が短縮いたしました。春は桜、秋は紅葉、そして今日は冬になりそうな御嶽山を眺めながら来ましたが、岐阜県と長野県両県の交流人口を促進することで、観光振興にも大きく貢献しております。整備にご尽力いただく皆さまに深く感謝申し上げます。



長野県 伊那市長
白鳥 孝

◆開催地代表あいさつ

権兵衛トンネルの開通以来、経済・観光・医療など多方面で事業効果が現れ、岐阜・長野両県を結ぶ広域ネットワーク形成に大きな役割を果たしております。令和元年の台風19号による伊那側法面崩落では、住民生活に大きな影響が生じました。自然災害の激甚化が進む今、安全で安心な道路整備の重要性は一層高まっています。これまでの成果を踏まえ、今後の伊那・木曽・高山における道路整備の必要性を共有する機会とし、本日の議論が地域振興と道路整備の推進につながることを期待いたします。皆さまのご支援をお願いし、開催地代表の挨拶とさせていただきます。



衆議院議員
後藤 茂之 様

◆来賓祝辞

道路はネットワークと言いますが、権兵衛トンネルは地域住民の生活や活動をつなぎ、物流の役割を果たしてきました。国道361号では、神谷ランプ橋から国道19号への姥神峠道路の事業化、九歳峠周辺の登記変更などに尽くしてまいりました。道路のネットワークを支えるためには、財源が必要。現在、暫定税率の見直しの責任者をやっています。財源を確保した上で、地域の国民の命と暮らしを守ること。道路だけでなく、そこに住む私たちの社会のネットワークをつなぎ、地域共生の今後をしっかりと支えていくことを誓って、20周年記念のご挨拶とさせていただきます。



衆議院議員
宮下 一郎 様

◆来賓祝辞

20年前、権兵衛トンネルの中で父と共にテープカットをした光景を思い出します。父にとってもトンネル開通は長年の夢でした。開通により物流・レジャー・医療で大きな利便性が生まれ、令和元年の伊那側崩落時には、その重要性を改めて痛感しました。国道361号は観光面での大動脈となる路線です。国内外の多くの人に伊那谷や木曽谷を訪れていただきたい。人口減少を乗り越える力は、人と人との交流にあります。その基盤が国道361号だと強く感じております。伊駒アルプスロードや三遠南信自動車道もつながります。これからの地域交流の発展を祈念申し上げます。



長野県議会議員
酒井 茂 様

◆来賓祝辞

私は20年前、伊那市の助役として開通式典に出席いたしました。国・県・期成同盟会、関係者の皆さまのお力に加え、宮下一郎先生のお父様、宮下創平代議士の存在が大きかったと思います。道路は命の道と言います。地域医療の維持は大きな課題で、木曽病院では来年4月から分娩ができなくなります。すでに救急患者は伊那中央病院に搬送され命が守られています。今後はリニアや三遠南信自動車道と連携しながら、地方創生の実現を目指します。関係者の皆さまには感謝を申し上げ、また今後も伊那木曽連絡道路の完成にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

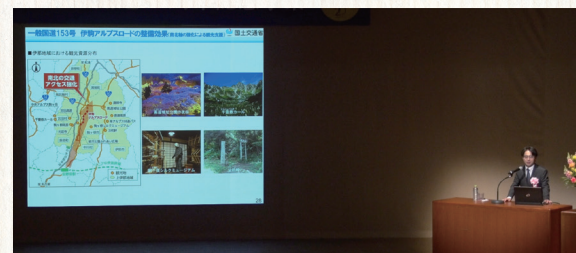
◆基調講演

基調講演1 【テーマ】地方における道路整備の重要性

国土交通省 道路局長 沓掛 敏夫 氏

ヨーロッパでは、アルプスを貫く55kmのブレンナーベーストンネルや、デンマークとドイツを海底で結ぶフェーマルンベルト・トンネルなど、大規模なインフラ整備が進行しています。人口規模が近い日本とドイツを比べると、1時間の行動可能範囲には約4倍の差があり、これは都市的サービスが受けられるか、地域がそこで根付いていけるかどうかにも影響しています。

国土交通省は、2023年に道路を多次元に機能させて地域を強くする「WISENET(ワイズネット)2050」を発表。経済成長・物流強化、低炭素で持続可能な道路の実現など6つの柱を掲げ



ています。

日本は気候・自然・食・文化がそろって稀有な観光大国で、令和6年度のインバウンド旅行消費は8.1兆円へと拡大しました。今後は地域のストーリーを体現する街並みや自然に加え、道の駅を街ぐるみで戦略的に活用することが重要になります。国道153号や伊駒アルプスロードでは南北アクセスの強化を進めます。

移動手段ではレベル4の自動運転が全国で9カ所実装され、地域交通や観光の新たな足として期待されています。さらにリニアの開業により、東京・名古屋が通勤圏となり、生活圏・観光圏は大きく変化します。国土交通省では「強い経済」を実現する総合経済対策のもと、これからも地方の伸び代の活用や防災・減災・国土強靱化の推進と地域が発展する道路整備を進めていきます。

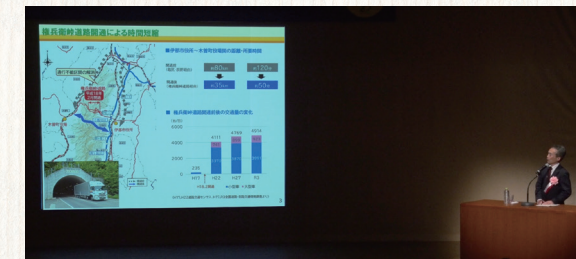


基調講演2 【テーマ】道路を活用した伊那谷・木曽谷の地域振興

長野県 建設部長 栗林 一彦 氏

権兵衛トンネルの開通により、伊那市と木曽町との距離は約80kmから35km、所要時間は約120分から50分へと大幅に短縮されました。これにより、救急搬送の迅速化、木曽地域への企業進出、伊那市の商圈拡大、通勤圏の拡がりなど、生活に密着した効果が定着し、今後も地域発展に寄与することが期待されます。

一方、神谷ランプ橋から国道19号までの国道361号は斜面崩落や土砂流出による通行止めが発生するなど、脆弱性が残っています。安全の確保と道路ネットワークの強化に向け、令和3年度より姥神峠道路(延伸)工区(延長3.5km)の道



路改築事業を進めています。中央自動車道、国道19号や国道153号と連携し、伊那・木曽地域間をはじめ県内外との広域的な交流の促進に貢献すると考えています。

伊那谷・木曽谷では、人口減少や少子高齢化、防災・減災力の強化、交流拡大と観光振興が共通課題です。住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう緊急輸送道路の機能強化、魅力ある観光地への更なる集客に向け快適なアクセスの確保を進めています。さらに、両地域ともに、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の整備効果を地域振興に活かしていくことがこれからの地域の発展のため

に必要であり、リニア関連道路の整備も進めています。



300年以上前、峠の開拓で地域振興に尽力した権兵衛さんのように、本県も、皆様とともに一致団結し地域振興に向け取り組んでまいります。